第１学年　社会科（地理的分野）学習指導案

１　単元名　　「アジア州－急速に進む成長と変化－」

２　単元の目標

○アジア州の自然環境，産業，生活・文化，歴史的背景などの特色について，意欲的に追究する。【社会事象への関心・意欲・態度】

○アジア州の経済が成長してきた理由について，多面的・多角的に考察し，その過程や結果を適切に表現できる。【社会的な思考力・判断力・表現力】

○教科書や収集した資料から,アジア州の地域的特色について基礎的・基本的な知識を身につける。【資料活用の技能，社会事象についての知識・理解】

３　単元の指導計画（全１２時間）

時	主な学習内容	学習目標	評価規準	関	思	技	知
1 2	アジア州をながめてアジア州の急成長 ※教科書で学習するアジア州（６カ国）を１人１カ国，家庭学習としてレポートにまとめる。	・アジアの自然環境，人口，文化，産業の特色について，資料から読み取り，基礎的な内容を身につける。 ・「世界の超高層ビル高さベスト 10」から 2000 年以降のアジア州の急成長を理解する。	・変化に富む自然環境，文化が入り交じっていること，都市化が急速に進むアジア州の全体の状況を理解している。 ・アジア州の概観を通して，アジアの急成長に関心をもって，それに関して意欲的に追求しようとしている。	○			○
3	成長する東アジア① アジア NIES の出現	・東アジア（韓国・台湾）の工業化について理解する。 ・アジア NIES の輸出の様子や変化から工業化の進展を読み取る。	・アジア NIES の輸出の内訳のグラフや輸出品の変化のグラフなどの資料から，アジア NIES の工業化の様子を読み取っている。		○	○	
4	成長する東アジア② 中国の発展	・中国の急速な発展とその課題を理解する。 ・資料から中国の急成長をとらえ，その背景を考察する。	・中国の工業化が進んだ理由を，政策と人口の面からとらえている。 ・都市部の急激な経済成長と農村部との経済格差が広がっていることに関心をもっている。	○			○
5	東南アジアの発展と課題	・東南アジアの発展とその課題を理解する。 ・東南アジア諸国の都市と農村の変化を，資料から考察する。	・東南アジアから日本への大量輸出品から，東南アジアとの関わりに関心をもち，意欲的に調べている。 ・東南アジアの発展に伴う都市と農村の変化を，資料から考察し，まとめている。		○	○	

6	南アジアで急速に成長するインド	・資料を使って，インドが急速に発展したことを理解する。 ・インドにおける農村から都市部への人口移動とその課題をとらえる。	・資料から，インドの ICT 関連産業が発展した理由を考察し，理解している。 ・インドの発展に伴う経済格差を，資料から考察し，まとめている。			○	○
7	資源の豊かな西アジア・中央アジア	・西アジアや中央アジアの国々の特色を理解する。 ・西アジアと中央アジアの共通点を考察する。	・資料から西アジア・中央アジアの国々が鉱産資源に頼っていることを読み取る。 ・資料から，西アジアと中央アジアの共通点について考察し，それを適切に表現している。		○	○	
8 9	10 年後のアジア州	・今までの学習と資料，生活班でのレポートによる情報交換から，アジア 5 カ国の 10 年後の発展状況を予測し，考察する。	・アジア州で，急速な成長が進んできた理由や資料をもとに，今後の発展の予測を論述し，意見交換することで，自分の考えをまとめている。		○	○	
10 11	日本が関係を深めたらよいアジアの国（本時：11）	・今までの学習から，これから日本がアジア 5 カ国の中で関係を深める国を資料から考察する。	・急成長を遂げるアジア州と日本との関係について論述し，意見交換することで，自分の考えをまとめている。		○	○	
12	振り返り	・急速な成長を遂げるアジア州の地域的特色と日本との関係について，考察する。	・アジア州の地域的特色をとらえ，日本とアジア州の関係について自分の考えをまとめている。		○		○

4　本時の計画（１１時間目／全１２時間　）

（1）本時のねらい

○アジアの５カ国のなかで，日本がこれから関係を深めたらよい国について，グループと学級全体で話し合う活動を通して，根拠を明らかにして説明することができる。

（2）本時の展開　※意識して取り組むフレームワーク→「問題解決型」・「技能習得型」・「単元型」

学習活動	教師の働き掛けと予想される生徒の反応	■評価・○留意点
（導入） 前時の既習内容を確認し，学習課題と本時の活動を把握する。 （５分）	T1　前時では，「これから日本はアジア州のなかで，どこの国との関係を深めたらよいか。」 を資料をもとに，自分の考えを書いてもらいました。今日は，グループでお互いの考えを発表し，さらに学級全体でグループの考えを発表し，自分の根拠を明らかにして結論を書いてほしいと思います。 T2　前時の集計結果を伝える。 　韓国（東アジア）　＿＿＿名 　インドネシア（東南アジア）　＿＿＿名 　インド（南アジア）　＿＿＿名	○授業前に，座席表を黒板に貼り，同じ国を選んだグループごとに着席させる。 ○本時の流れを黒板に貼る。 ○黒板に前時の集計結果をネームプレートを貼って示す。

	サウジアラビア（西アジア）　　＿＿＿名 ウズベキスタン（中央アジア）　＿＿＿名 〈学習課題〉これから日本はアジア州のなかで，どこの国と関係を深めたらよいか。	
（展開） グループで意見交換をする。 （１５分）	T2　グループでお互いの考えを発表し，グループ内での考えをまとめなさい。ホワイトボードにグループ内の結論と理由を書いてください。 S1 韓国：同じ東アジアの国で，日本から一番近いから。古くから歴史的に交流があり，文化で一番影響がある。 S2 インドネシア：資源が豊富で，人口も多い。安い労働力で外国の企業を積極的に受け入れる。住宅団地や道路が未整備で，日本企業が進出しやすい。 S3 インド：将来人口世界一になり，経済が急速に成長する。数学の教育水準が高く，IT 産業がさらに成長する。都市と農村で格差があり，開発が必要である。 S4 サウジアラビア：これからも石油資源が必要。日本企業が，都市建設や農業・道路開発でもうけるため。砂漠の緑化のために日本は貢献する必要がある。 S5 ウズベキスタン：石炭，石油，天然ガス，レアメタルなど多くの鉱産資源に恵まれ，これからも成長が期待できるから。あまり関係が深い国ではないので，これから資源を安く手に入れるためには大切。 T3 各グループのホワイトボードを黒板に貼ってください。	○司会，発表者を決めさせる。 ○事前に書いた付箋をホワイトボードに貼り付け，グルーピングしながら，理由を整理させ，キーワードや短い文で書かせる。 ■グループ内での発表で参考になったことをワークシート3にメモする。
学級全体に発表する。（１５分）	T4　各グループでまとめた考えを発表してください。 T5　発表された考えに質問や意見はありませんか。	■学級での意見交換で参考になったことをワークシート4にメモする。 ○質問がない場合は，授業者が質問をする。
（終末） 最終結論を記述する。（５分）	T6　最終的な自分の考えを，ワークシート5にまとめてください。 まとめ 韓国：同じ東アジアの国で，日本から一番近いから。他の４カ国と比べ歴史的にも交流があり，現在も，在留日本人，在日外国人数とも５カ国の中で一番多い。また，「韓流」など文化でも一番影響がある。貿易で対日輸出入も一番多い。これからも安いハイテク産業の製品を輸入したいから。 インドネシア：他の４カ国と比べ，広大な未開発な土地や豊富な資源と労働力があり，総合的に魅力的である。安い労働力で外国の企業を積極的に受け入れ，これからの発展が期待でき，住宅団地や道路が未整備で，日本企業が進出し，開発する魅力がある。	○多くの観点で理由を書かせる。 ■今までの学習をもとに根拠をあげて，ワークシート5に書くことができる。

	インド：将来人口世界一になり，これから中国に変わり，経済が急速に成長する。数学の教育水準が高く，IT 産業でさらに成長する。他の４カ国と比べても面積が広く，都市と農村で格差があり，これから日本が協力して開発したらよい。 サウジアラビア：これからも石油が重要な資源あり絶対必要である。他の４カ国よりお金を持っており，日本企業が，都市建設や農業・道路開発で支援し，利益を得やすい。また，地球の温暖化防止や砂漠の緑化のために日本は貢献する必要があるから。 ウズベキスタン：石炭，石油，天然ガス，レアメタルなど多くの鉱産資源に恵まれ，これからの成長が期待できる。他の４カ国に比べ，現在，あまり関係が深い国ではないので，これから資源を安く手に入れるためには大切な国である。経済発展が遅れているので，日本企業が一番進出しやすい。	
各自に最終結論を知る。（２分）	T7　最終結論について，結果を聞く。挙手させる。 韓国（東アジア）　＿＿名 インドネシア（東南アジア）　＿＿名 インド（南アジア）　＿＿名 サウジアラビア（西アジア）　＿＿名 ウズベキスタン（中央アジア）　＿＿名	○考えが変わった生徒のネームプレートを移動させる。
他の生徒の最終結論の理由を知る。（３分）	T8　各国１人ずつ，理由を発表してください。	○机間巡視のなかで，発表者を見つけておく。
振り返りを行う。（５分）	T9　今日の学習の振り返りを書いてください。 S6 参考になったこと，新たな気づき，疑問に思ったことなどを書く。 T10　書いたことを発表してください。	■学習の振り返りを書く。

（３）本時の評価

○学習課題に対して，グループや学級での話し合いをメモし，それを参考にして，最終的に自分の考え（結論）を記述している。

（４）板書計画

アジア州　～日本が関係を深めたらよいアジアの国～

学習課題　日本はアジア州の中で，どこの国と関係を深めたらよいか。

韓国（人数）　インドネシア（人数）　インド（人数）　サウジアラビア（人数）　ウズベキスタン（人数）

※各自のネームプレートを貼る。

振り返り
アジア州は，各国とも魅力がある。日本は，各国の状況をよく知り，今まで以上に，外国との関係を大切にする必要がある。

まとめ　※グループごとにホワイトボードを貼る。

韓国		インドネシア		インド		サウジアラビア		ウズベキスタン	
近さ	韓流文化	豊富な	広大な土地	教育水準	将来人口世界一	石油	温暖化防止	資源	発展の遅れ
歴史交流	貿易	資源や	安い賃金	広い面積	中国の次	豊富な資金	砂漠の緑化	現状の関係	成長度
在日数	ハイテク産業	労働力	未開発地	IT産業	未開発地	都市建設			